

## マット・オイカワ

## Matt OIKAWA

所属：王子製紙

ポジション：FW

生年月日：1977年10月27日

出生地：カナダ

【プロフィール】 日系人プレーヤー。GHLでプレーした後、1995-1996シーズンからNCAAのセント・ローレンス大学で4シーズンプレー。1997NHLエントリードラフトでワシントン・キャピタルズから9巡目（全体で226位）指名を受ける。王子製紙入りし、選手登録はしたものの、日本リーグでのプレー実績は残していない。

【レビュー】 名前を憶えていますから、チームにいたとは思いますが……。受け入れ（加入）の準備もしていたと思いますが、実際の在籍自体が分かりません（笑）。そのため、全然、プレーも顔も記憶にありません。プレーもうまくなかったと思いますよ（笑）。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1999-2000	第34回	王子製紙	4位	6	6回総当たり	4位	-	-	-	-	- / -	セミファイナル敗退	-	-	-	-	- / -	
						計	-	-	-	-	- / -		計	-	-	-	-	- / -

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第1版：2026年3月15日・記

## アーロン・キラー／キラー アーロン

## Aaron KELLER

所属：雪印→王子製紙

ポジション：DF

生年月日：1975年3月1日

出生地：カナダ

【プロフィール】WHLで4シーズンプレーした後、1996-1997シーズンはECHLのピオリア・リバーメン、IHLのシカゴ・ウルブズ、AHLのボルチモア・バンディッツでプレーした後、雪印入り。日本リーグでは雪印で4シーズン、札幌ポラリスで1シーズン、王子製紙で2シーズンプレー。その後、アジアリーグでは王子イーグルスでプレーした。日本国籍を取得した後、2004-2005シーズンに日本代表入り。世界選手権（ディビジョン1・ディビジョン1-A）に8回出場し40試合6ゴール17アシスト23ポイントをマークした他、冬季アジアやオリンピック予選などにも出場した。現役引退後、日本代表や王子イーグルスをはじめ、WHLのカムループス・プレイザーズのコーチなどを務めた。

【レビュー】キラーは当初、トレッドミルのスケートマシンが全くできませんでした。またトレーニングは嫌いでした。正直なところ、「大丈夫かな。良く取ったな」と思ったほどでした（笑）。でも違いました。プレーでは視野が広く、天才的に上手かったです。CFをやってきて、それまで組んだDFで、一番やりやすかったのは、外崎（一馬）さんとキラーです。動いていて「ほしいな」と思った時に必ずパスが来ました。察知能力が高かったですね。シュートも決められますし、ちょっとしたフェイクで敵を抜いてきます。難しいプレーも難しく見せず、簡単にできる選手でした。もっとトレーニングを積んでいたなら、上のレベルに行けたと思います。

余談になりますが、息子（キラー・ジョーダン）はCHLのカムループス・プレイザーズなどでプレーしています。2025年の夏の日本代表ユース合宿に参加しました。将来的には日本代表に選ばれる可能性のある選手だと思います。（評：雪印時代・岩本裕司）

雪印時代の印象はスマートなプレーヤーでした。スピードがあるわけでもなく、ハードチェックをするわけでもなく、サイズも日本人と変わりませんから、怖さはあまりなかったです。その代わり守りは上手かったですね。ラインを防ぐことやリバウンドの処理、2対1を取るなどが上手かったです。

王子加入の最初の頃はシャイでしたが、その後はリーダーシップを発揮してくれました。負けている試合で下を向いている選手がいると、「まだ終わっていない。まだまだここから」と鼓舞して、発破をかけてくれました。

身長があまりないので、労力をかけず、大型選手に絡まないでバックを取ることを考えてプレーしていました。大型選手に当たりに行っても、バックをキープされて背中を向けられたら、容易には奪えません。そのような場合、小さいなりにどのようなプレーをしなければいけないか、頭を使ってスマートに、労力を使わないでバックを奪うことや、奪ったら素早くFWにつなぐこと。これらがキラーのスタイルでした。パス出しと守りを重視した選手でした。（評：王子製紙時代・高木英克）

【日本リーグアワード】ベスト6：第38回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1997-1998	第32回	雪印	3位	6	8回総当たり	2位	40	5	20	25	10 / 20	ファイナル敗退	4	1	1	2	0 / 0
1998-1999	第33回	雪印	5位	6	8回総当たり	5位	40	8	22	30	18 / 36	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
1999-2000	第34回	雪印	5位	6	6回総当たり	5位	30	7	11	18	17 / 63	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
2000-2001	第35回	雪印	2位	6	8回総当たり	3位	40	4	18	22	14 / 36	ファイナル敗退	8	4	3	7	1 / 2
2001-2002	第36回	札幌ポラリス	5位	6	8回総当たり	5位	25	0	9	9	7 / 14	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
2002-2003	第37回	王子製紙	3位	5	8回総当たり	2位	31	3	17	20	13 / 38	シルバーラウンド敗退	2	0	1	1	/
2003-2004	第38回	王子製紙	2位	4	前後期各4回総当たり	2位※	24	4	16	20	13 / 34	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -
計							230	31	113	144	92 / 241	計	14	5	5	10	1 / 2

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

## ウラジミール・クラムスコイ

## Vladimir KRAMSKOY

所属：新王子製紙・王子製紙

ポジション：DF

生年月日：1967年3月5日

出生地：旧ソ連（現ロシア）

【プロフィール】旧ソ連の下部リーグでのプレーを経て、1988-1989シーズンから2シーズン、旧ソ連のトップリーグであるスーパーリーグのディナモ・リガでプレー。その後、ディナモ・モスクワ（ファームチームを含む）でプレーした。1993-1994シーズンから2シーズンは、レギュラーシーズンはスウェーデンが主なプレーの場であったが、スウェーデンのリーグ終了後、ロシアのトップリーグであるスーパーリーグのプレーオフにも出場した。王子製紙退団後はアバングルド・オムスクやチェスカ・モスクワ、クリリヤ・ソビエトフなどでプレーした。現役引退後はチェスカ・モスクワのジュニアチームの監督やコーチなどを務めた。

【レビュー】守備が良いだけでなく、シュート力やスピードがありました。攻守に優れ、主軸としてパワープレーやキルプレーにも出ました。特に守りは堅く、クラムスコイが相手FWに抜かれた記憶がなく、コーナーでの1対1でも抜かれることはほぼありません。彼がいるサイドは任せて次の展開・対処を読んで動けば良かったです。それが外国人相手でも同じでした。また、ボディチェックの破壊力がすごいわけではないですが、コンスタントにパスを出していました。

性格的には大人しいタイプで、口数は少なかったです。リーダーシップを発揮するタイプではなく、自分から積極的にアドバイスすることはなかったです。練習も一生懸命取り組んでいました。黙々とプレーヤーに徹し、仕事を全うしていました。

【日本リーグアワード】ベスト6：第32回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1995-1996	第30回	新王子製紙	2位	6	前後期各4回総当たり	3位※	38	6	14	20	25 / 76	ファイナル敗退	3	1	3	4	3 / 6
1996-1997	第31回	王子製紙	2位	6	6回総当たり	1位	30	10	17	27	24 / 56	ファイナル敗退	5	2	6	8	5 / 18
1997-1998	第32回	王子製紙	3位	6	8回総当たり	2位	34	11	24	35	37 / 98	セミファイナル敗退	2	0	0	0	1 / 2
1998-1999	第33回	王子製紙	2位	6	8回総当たり	3位	9	3	7	10	5 / 10	ファイナル敗退	7	0	4	4	10 / 20
1999-2000	第34回	王子製紙	4位	6	6回総当たり	4位	30	5	12	17	/	セミファイナル敗退	3	1	1	2	2 / 4
				計			141	35	74	109	91 / 240	計	20	4	14	18	21 / 50

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第34回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

# イーゴリ・ドロフェーエフ

## Igor DOROFEEV

所属：王子製紙

ポジション：FW

生年月日：1968年8月10日

出生地：旧ソ連（現ロシア）

【プロフィール】1985-1986シーズンから旧ソ連のトップリーグであるスーパーリーグのディナモ・モスクワでプレー。1987-1988シーズンにはソ連ジュニア代表（U20）に選ばれ、世界ジュニアU20選手権に出場。7試合3ゴール1アシスト4ポイントをマークし銀メダルを獲得している。ディナモ・モスクワでのプレーがメインであったが、1992-1993シーズンはスイスリーグ（NLA）、1994-1995シーズンにはイタリアリーグでプレーもした。王子製紙退団後は、ロシアのトップリーグであるスーパーリーグのアバンガルド・オムスクやクリリヤ・ソビエトフなどでプレーした。現役引退後はジュニアチームの監督などを務めた。

【レビュー】表現は辛らつになりますが、期待したほどの活躍はできず、あまり記憶にありません（笑）。CFもできるという触れ込みでしたが、ウイングしかできませんでした。しかも、体もそんなに大きいわけでもなく、スピードもテクニックももう一つでした。のらりくらりするタイプで、チェックされても反撃するわけでもなく、相手に圧倒されていました。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1996-1997	第31回	王子製紙	2位	6	前後期各4回総当たり	1位※	29	17	31	48	11 / 30	ファイナル敗退	5	3	2	5	9 / 39
1997-1998	第32回	王子製紙	3位	6	8回総当たり	2位	34	15	34	49	13 / 26	セミファイナル敗退	2	1	1	2	0 / 0
						計	63	32	65	97	24 / 56	計	7	4	3	7	9 / 39

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

## グレゴリー・パークス

## Greg PARKS

所属：王子製紙

ポジション：FW

生年月日：1967年3月25日

出生地：カナダ

【プロフィール】1986-1987シーズンから4シーズン、NCAAのボウリング・グリーン州立大学でプレー。その後、ECHLやAHLでプレーし、1990-1991シーズンにNHLドラフト外でニューヨーク・アイランダーズ入り。NHLは3シーズン23試合1ゴール2アシスト3ポイントをマークした。NHL以外ではカナダ代表として1994年のリレハンメルオリンピックに出場。8試合1ゴール2アシスト3ポイントをマークし、銀メダルを獲得している。代表以外ではスウェーデンのトップリーグであるSELのレクサンドIFやブリュネースIF、さらにドイツリーグやスイスリーグ（NLA、NLB）などでプレーした。現役引退後はジュニアチームのGMや監督などを務めた。

【レビュー】パークスから声をかけてきて、明るく、コミュニケーションを取るのが上手かったです。自分が学んできた戦術などをボードを使って教えてくれることもしていました。独りよがりではなく柔軟な考え方を持っていて、チームの方向性を示すと、それに従って戦ってくれました。また彼のやり方を取り入れたこともあります。

身長は大きくなかったですが、NHLの経験もありました。感情を前面に出すので、感情を抑えられないなど喜怒哀楽はものすごくありました。

杉沢（明人）が得点王を取れたのは彼と組んでいたからです。CFとしてフェイスオフも強かったですし、当たりも強かった。やられたらやり返しに行っていました。チームに対する影響力は大きかったです。

【日本リーグアワード】ベスト6：第37、38回／アシスト王：第37回／ポイント王：第37回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ						
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
2002-2003	第37回	王子製紙	3位	5	8回総当たり	2位	32	18	32	50	20 / 82	シルバーラウンド敗退	2	1	3	4	/	
2003-2004	第38回	王子製紙	2位	4	前後期各4回総当たり	2位※	24	14	15	29	/	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -	
						計	56	32	47	79	20 / 82		計	2	1	3	4	0 / 0

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第37回日本リーグ・プレーオフと第38回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

第1版：2026年3月15日・記

## セルゲイ・パウーチン

## Sergei BAUTIN

所属：王子製紙

ポジション：DF

生年月日：1967年3月11日

出生地：旧ソ連（現ベラルーシ）

【プロフィール】1990-1991シーズンから2シーズン、ロシアのトップリーグであるスーパーリーグのディナモ・モスクワでプレー。その間、CIS（独立国家共同体）のメンバーとして1992年のアルペールビルオリンピックに出場し、金メダルを獲得した。また1992世界選手権にも出場した。1992NHLエントリードラフトでウイニペグ・ジェッツから1巡目（全体で17位）指名を受ける。1992-1993シーズンからNHLでプレー。ウイニペグ、デトロイト・レッドウィングス、サンノゼ・シャークスでプレーし、132試合5ゴール25アシスト30ポイントをマークした。NHL以外では王子製紙入りする前シーズン（1999-2000）まで、北米ではAHLやIHL、ヨーロッパではスウェーデンのトップリーグであるSELのルレオHFやロシア・スーパーリーグ、ドイツリーグなどでプレーした。さらにロシア代表として1997年と1999年の世界選手権にも出場した。ロシア代表（CISを含める）としてのオリンピックと世界選手権の成績は、オリンピックは8試合出場0ポイント、世界選手権は19試合1ゴール5アシスト6ポイントをマーク。王子退団後はロシア・スーパーリーグのメタルルグ・マグニトゴルクスなどでプレーした。現役引退後はアメリカのジュニアチームの監督などを務めた。

【レビュー】NHLでは乱闘要員で、スタープレーヤーがやられたら、やり返しに行くのが役割でした。衝撃的だったのが新横浜でのコクドとの定期戦でした。パウーチンの情報はコクドにも入っていましたが、中島谷（友二郎）が何か言ったらいいのです。その直後の一瞬の出来事でした。パウーチンが中島谷をノックアウトしたのです。コクドの外国人が「絶対にあいつを怒らせるな。手を出すな」と言ったほどです。この出来事が知れ渡ったのか、彼に変なちょっかいを出す選手はいなかったですね（笑）。

実は彼の奥さんは、争いごとが嫌いで、試合を見に来ません。パウーチンが試合でファイトをするからです。でも彼はやりたくてやっているわけではありません。チームを守るため、チームのためにやっていた。

プレーヤーとしては、足は速くなかったですが、パスは出せますし、シュートも放ちます。それ以上に彼が守っていることで安心感がありました。ゴール前に相手はなかなか入ってきませんし、スクリーンに入ってくる選手を排除していました。GKにシュートを見えるようにしていた点は見習うことができました。GKは助かったと思います。

氷上では遠慮なくファイトもしましたが、オフアイスでは人見知りもしてシャイでした。また奥さんを大事にする紳士でした。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
2000-2001	第35回	王子製紙	3位	6	8回総当たり	2位	40	5	19	24	28 / 56	セミファイナル敗退	5	1	0	1	4 / 8	
2001-2002	第36回	王子製紙	4位	6	8回総当たり	3位	37	1	12	13	/	セミファイナル敗退	2	1	0	1		
						計	77	6	31	37	28 / 56		計	7	2	0	2	4 / 8

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第36回日本リーグ・レギュラーリーグとプレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

第1版：2026年3月15日・記

## セルゲイ・プリアーヒン

## Sergei PRIAKHIN

所属：王子製紙

ポジション：FW

生年月日：1963年12月7日

出生地：旧ソ連（現ロシア）

【プロフィール】1979-1980シーズンから旧ソ連のスーパーリーグのクリリヤ・ソビエトフでプレー。最終的にロシア（旧ソ連を含む）でのプレーはクリリヤ・ソビエトフ一筋だった。1981-1982シーズンと1982-1983シーズンの2回、世界ジュニアU20選手権に出場し、14試合4ゴール5アシスト9ポイントをマークし、1982-1983シーズンの大会では金メダルを獲得している。ソ連代表としても世界選手権に2回（1987年と1990年）出場し、11試合3アシスト3ポイントをマークするとともに、1987年は銀メダル、1990年は金メダルを獲得している。また1987年のカナダカップにも出場し銀メダル獲得と9試合2アシスト2ポイントをマークした。NHLでは1988NHLエントリードラフトでカルガリー・フレイムスから12巡目（全体で252位）指名を受け、1988-1989シーズンから3シーズン、カルガリーでプレーし46試合3ゴール8アシスト11ポイントをマークした。NHL以外ではIHLやスイスリーグ（NLA）、古巣のクリリヤ・ソビエトフ、フィンランドのトップリーグであるSMリーガのキエッコ・エスポなどでプレーした後、王子製紙入りした。王子退団後はクリリヤ・ソビエトフに復帰した。現役引退後もクリリヤ・ソビエトフの監督やコーチなどを務めた。

【レビュー】ソ連代表として世界選手権にも出場し、かつNHL経験もありますから、レベルは高いと思います。しかし、名前の記憶はありますが、正直なところ、プレーヤーとしての印象があまりありません（笑）。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1998-1999	第33回	王子製紙	2位	6	8回総当たり	3位	19	6	10	16	3 / 6	ファイナル敗退	-	-	-	-	- / -
						計	19	6	10	16	3 / 6	計	-	-	-	-	- / -

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第1版：2026年3月15日・記

## アナトリー・フェドートフ

## Anatoli FEDOTOR

所属：新王子製紙・王子製紙

ポジション：DF

生年月日：1966年5月11日

出生地：旧ソ連（現ロシア）

【プロフィール】1985-1986シーズンから旧ソ連のスーパーリーグのディナモ・モスクワでプレー。ディナモ・モスクワ入りと前後し、1984-1985シーズンと1985-1986シーズンの2回。ソ連ジュニア代表（U20）として世界ジュニアU20選手権に出場し、銅メダル（1985）と金メダル（1986）を獲得した。また、1987-1988シーズンにはソ連代表としてカナダカップにも出場し、銀メダルを獲得している。1992-1993シーズンからプレーの場を北米に移してAHLやIHLでプレー。また1試合ながらNHLのウイニペグ・ジェッツでプレーしている。この時、まだNHLのドラフト指名を受けておらず、NHLプレー後にドラフト指名にかかる珍しいキャリアの持ち主でもある。1993NHLエントリードラフトで、アナハイム・マイティダックスから10巡目（全体で238位）指名を受ける。NHLのキャリアは1993-1994シーズンまでで、ウイニペグ、アナハイムで4試合2アシスト2ポイントをマークした。王子製紙で1シーズンプレーした後、フィンランドのトップリーグであるSMリーガのタッバラ、スウェーデンのトップリーグのSELのHV71でプレーするとともに、ロシア代表として1997世界選手権にも出場した。1998-1999シーズンに王子に復帰し2シーズンプレーした後、再び退団。ロシア・スーパーリーグでプレーした。代表として成績は、世界ジュニア選手権（U20）では13試合1ゴール7アシスト8ポイント、世界選手権では9試合2ゴール2アシスト4ポイント、カナダカップでは8試合1アシスト1ポイントをマークしている。

【レビュー】旧ソ連だけではなくNHLなど北米でのプレー経験があったので、旧ソ連の外国人とは異なり、コミュニケーションを取りたがり、チームに溶け込み、よく飲みに行っていました。ハードチェックもしましたし、日本リーグ開幕前の定期戦で、フェンス際で思いっきりチェックをして、相手の選手（ロシア人）が立てなくなって担架で運ばれていったのを覚えています。ワントタイムショットもバンバン放っていましたが、シュートは速いのですが、コントロールが悪いのでどこへ行くか分かりませんでした（笑）。攻撃的なDFでドンドン攻め上がっていました。

【日本リーグアワード】ベスト6：第30回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1995-1996	第30回	新王子製紙	2位	6	前後期各4回総当たり	3位※	35	15	17	32	25 / 50	ファイナル敗退	3	3	0	3	3 / 6
1998-1999	第33回	王子製紙	2位	6	8回総当たり	3位	38	7	23	30	34 / 76	ファイナル敗退	7	2	3	5	8 / 16
1999-2000	第34回	王子製紙	4位	6	6回総当たり	4位	17	2	6	8	/	セミファイナル敗退	3	0	0	0	1 / 2
						計	90	24	46	70	59 / 126	計	13	5	3	8	12 / 24

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第34回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

## セルゲイ・ペトレンコ

## Sergei PETRENKO

所属：王子製紙

ポジション：FW

生年月日：1968年9月10日

出生地：旧ソ連（現ウクライナ）

【プロフィール】旧ソ連の下部リーグのディナモ・ハルキウ（現ウクライナ）でプレーした後、1987-1988シーズンから旧ソ連のスーパーリーグのディナモ・モスクワで1992-1993シーズンまでの6シーズンプレー。その間、1988世界ジュニアU20選手権、1992年のアルベールビルオリンピック、1992世界選手権、1993世界選手権に出場。世界ジュニアU20選手権ではソ連ジュニア代表として銀メダル、アルベールビルオリンピックではCIS（独立国家共同体）で金メダル、1993世界選手権ではロシア代表として金メダルを獲得した。NHLには1993NHLエントリードラフトでバッファロー・セイバーズから7巡目（全体で168位）指名を受けた。1993-1994シーズンはNHLのバッファローとAHLでプレーし、NHLでの成績は14試合4アシスト4ポイントをマークした。1994-1995シーズンはAHLでプレーし、その後、王子製紙入りするまでディナモ・モスクワやメタルルグ・ノボクズネツク、スイスリーグ（NLA）、チェコのエクストラリーガ（トップリーグ）のビトコビツェなどでプレーした。ロシア代表としても1997年、1998年、1999年の世界選手権にも出場した。王子退団後はロシア・スーパーリーグのシビル・ノボシビルスクなどでプレーした。代表としての成績は世界ジュニアU20選手権では7試合（0ポイント）、オリンピックは8試合3ゴール2アシスト5ポイント、世界選手権では26試合7ゴール11アシスト18ポイントをマークした。現役引退後は、ロシアU18代表やディナモ・モスクワのコーチなどを務めた。

【レビュー】当時は外国コーチが自分の馴染みのある選手を引っ張ってきていたと思います。実績は十分ですが、正直なところ、記憶になく、覚えていません（笑）。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
2000-2001	第35回	王子製紙	3位	6	8回総当たり	2位	40	14	31	45	/	セミファイナル敗退	5	1	4	5	0 / 0
				計								計					
				40								5					
				14								1					
				31								4					
				45								5					
				0 / 0								0 / 0					

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第35回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

第1版：2026年3月15日・記

## バート・ヘンダーソン

## Burt HENDERSON

所属：雪印→王子製紙

ポジション：DF

生年月日：1975年11月5日

出生地：カナダ

【プロフィール】 日系人プレーヤー。雪印入りした1年目は外国人選手登録。2年目からは日系人選手登録となった。来日前はWHLのタコマ・ロケッツやECHLのバーミンガム・ブルズ、雪印入り直前の2シーズンはIHLのシンシナティ・サイクロンズの中心選手としてプレーした。雪印で2シーズンプレーした後、王子製紙・王子イーグルスでプレー（アジアリーグを含む）。王子退団後はイギリスのEIHLでプレーした。

【レビュー】 身長があり、荒々しいプレーヤーでしたから、敵には威圧感があったと思います。（アーロン・） キャラーほどではないですが、DFらしい良いパスも出せました。守り一辺倒ではなく攻撃にも積極的に参加し、良い場面で得点してくれました。日系人というより外国人といったプレーをしていました。（評：雪印時代・岩本裕司）

身長は高くなかったですが、シュート力もあり、どんどんジャンプアップして、後ろから攻めてきました。得点能力も高く、点に絡む攻撃的DFでした。

体の体系として上半身はものすごい体付きをしている反面、足は細く、腰に負担がかかり、治療もしていました。モチベーションが高く、試合に入る際はテンションが高かったです。リーダーシップもあり、選手は頼りにしてついて行きました。

日本への帰化を強く望んでいて、勉強もしていました。しかし、帰化申請の面談の際、シャイの性格が災いして、緊張してしまい上手くできなかったそうです。帰化をあきらめて帰国しました。日本国籍を取得できていれば、日本代表入りをして、もっと長く日本でプレーしたかったと思います。（評：王子製紙時代・高木英克）

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1999-2000	第34回	雪印	5位	6	6回総当たり	5位	26	7	14	21	39 / 152	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
2000-2001	第35回	雪印	2位	6	8回総当たり	3位	34	12	19	31	28 / 96	ファイナル敗退	8	1	1	2	8 / 18
2001-2002	第36回	王子製紙	4位	6	8回総当たり	3位	40	10	20	30	13 / 38	セミファイナル敗退	2	0	0	0	/
2002-2003	第37回	王子製紙	3位	5	8回総当たり	2位	30	6	21	27	22 / 48	シルバーラウンド敗退	2	1	0	1	/
2003-2004	第38回	王子製紙	2位	4	前後期各4回総当たり	2位※	22	6	12	18	18 / 70	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -
				計			152	41	86	127	120 / 404	計	12	2	1	3	8 / 18

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第36、37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

## マイケル・ヨシノ

## Michael YOSHINO

所属：王子製紙

ポジション：FW

生年月日：1974年1月24日

出生地：カナダ

【プロフィール】 日系人プレーヤー。1992-1993シーズンから4シーズン、NCAAのイエール大学でプレー。王子製紙退団後、香港のCIHLのクーロン・ウォリアーズでプレーした。ところで、イエール大アイスホッケーチームはアメリカで最古の大学チームの一つ。多くの代表選手やNHLプレーヤーを生み出している。

【レビュー】 プレーヤーとしてそれほど上手くはなかったです。日本語を覚えようと勉強をしていました。積極的にコミュニケーションを取っていました。ヨシノとコミュニケーションを取ることで、彼は日本語を覚え、他の選手たちは英語を覚えようとしていました。チームに英語を取り入れさせてくれた選手です。在籍期間は長くなかったですが、良い影響を与えてくれました。

また彼の場合は、王子退団後も関係が続いています。彼はイエール大出身で、しかも奨学金をもらうほどです。現在は香港にしながら世界中を飛び回っているそうです。アイスホッケー以外ですが弊社とも付き合いはあります。弊社だけではなく、日本国内のアイスホッケーチームとの関係があると聞いています。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1997-1998	第32回	王子製紙	3位	6	8回総当たり	2位	26	2	4	6	9 / 36	セミファイナル敗退	0	0	0	0	0 / 0
1998-1999	第33回	王子製紙	2位	6	8回総当たり	3位	39	18	12	30	20 / 48	ファイナル敗退	7	0	3	3	7 / 14
						計	65	20	16	36	29 / 84	計	7	0	3	3	7 / 14

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第1版：2026年3月15日・記

## ダスティ・イモオ／芋生ダスティ

## Dusty IMOO

所属：西武鉄道→王子製紙

ポジション：GK

生年月日：1970年7月18日

出生地：カナダ

【プロフィール】日系人プレーヤー。WHLのニューウエストミンスター・コメッツやレスブリッジ・ハリケーンズ、レジーナ・パッツなどでプレーした後、1991-1992シーズンはECHLのシンシナティ・サイクロンズやエリー・パンサーズ、ディトン・ボンバーズ、IHLのフォートウェイン・コメッツでプレーした。199-1995シーズンから西武鉄道入り。長野オリンピックの2カ月前の1997年12月に帰化が認められ晴れて日本人となり、代表入りを果たした。オリンピックは長野大会に出場、世界選手権は3回、オリンピック予選などにも出場した。長野オリンピックではPS戦までもつれたオーストリア戦で勝利に貢献するなど、3試合にマスクをかぶり、1勝1分1敗、GAA（60分平均失点）2.54をマーク。トップディビジョンの戦いとなった世界選手権では白星を挙げることはできず、8試合7敗、GAA6.68の成績であった。2003-2004シーズンには王子製紙に移籍し、2005-2006シーズンまでプレーした（アジアリーグを含む）。現役引退後は、BCHLやWHL、AHLのチームのGKコーチを経て、NHLのロサンゼルス・キングスのGK育成コーチなどを務めた。

【レビュー】練習はマイペースでもう一つ。ここぞという時の集中力はすごく、試合で力を発揮するゲームプレーヤーでした。素晴らしいものを持っていましたが、波がありむらっ気もありました。性格は真面目ではなく（笑）、わがままな面もある一方で、神がかったプレーもします。芋生のプライドを傷つけないように、「頼むよ」といった感じでした。（評：西武鉄道時代・青山勇人）

感情の起伏が激しい波があるGKでしたから、西武時代には、我々は芋生を怒らせればいと思っていました。挑発すれば乗ってきますし、反則もします。それを引き出して、冷静さをなくさせるようにすれば、ぼろが出ます。調子に乗せないように戦っていました。

王子入りした時はものすごくシャイで、言われたことはやりますが、プライドもあり、失点して交代すると機嫌は悪くなりますし、使いづらさがありました。家族を北米に帰ってしまったことが影響したかもしれませんが、メンタル的に不安定な面もありました。（評：王子製紙時代・高木英克）

【日本リーグアワード】最優秀選手：第29、34回／ベスト6：第29、34回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーシーズン										プレーオフ											
				チーム数	対戦方式	順位	試合	滞水時間	失点	完封	GAA	A	反則(回数/分)	試合	滞水時間	失点	完封	GAA	A	反則(回数/分)					
1994-1995	第29回	西武鉄道	2位	6	前後期各3回総当たり	3位※	29	1702:16	73	5	2.57	0	7 /	ファイナル敗退	5	321:06	11	0	2.06	0	0 /	0			
1995-1996	第30回	西武鉄道	1位	6	前後期各4回総当たり	2位※	38	2280:32	109	3	2.87	0	8 /	優勝	3	185:22	10	0	3.24	0	1 /	2			
1996-1997	第31回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	30	1827:38	98	2	3.22	1	8 /	24	優勝	4	242:03	10	0	2.48	1	0 /	0		
1997-1998	第32回	西武鉄道	4位	6	8回総当たり	4位	8	486:34	31	0	3.82	0	1 /	2	セミファイナル敗退	2	119:57	8	0	4.00	0	2 /	4		
1998-1999	第33回	西武鉄道	3位	6	8回総当たり	2位	40	2421:08	121	4	3.00	4	4 /	8	セミファイナル敗退	3	208:02	11	0	3.17	0	1 /	10		
1999-2000	第34回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	30	1817:33	75	2	2.48	2	4 /	優勝	9	570:52	23	1	2.42	0	2 /	12			
2000-2001	第35回	西武鉄道	5位	6	8回総当たり	5位	40	2438:45	125	2	3.08	0	8 /	プレーオフ不出場	-	-	-	-	-	-	- /	-			
2001-2002	第36回	西武鉄道	2位	6	8回総当たり	2位	5	299:16	14	1	2.81	0	0 /	ファイナル敗退								/			
2002-2003	第37回	西武鉄道	2位	5	8回総当たり	1位	16	973:02	36	3	2.22	0	2 /	ファイナル敗退								/			
2003-2004	第38回	王子製紙	2位	4	前後期各4回総当たり	2位※	24	1413:24	55	1	2.33	2	/	プレーオフ未開催	-	-	-	-	-	-	- /	-			
							<b>計</b>	<b>260</b>	<b>15660:08</b>	<b>737</b>	<b>23</b>	<b>2.82</b>	<b>9</b>	<b>42 /</b>	<b>34</b>		<b>計</b>	<b>26</b>	<b>1647:24</b>	<b>73</b>	<b>1</b>	<b>2.66</b>	<b>1</b>	<b>6 /</b>	<b>28</b>

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第29、30、34～38回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）と第36、37回日本リーグ・プレーオフの記録は未掲載（調査中）